



さんないまるやま つうしん

第 5 号

平成9年3月28日

青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室

〒030 青森市新町2丁目3-1

TEL (0177) 22-1111 (内5251・2)

FAX (0177) 77-5077

三内丸山遺跡対策室 松原分室

〒030 青森市松原1丁目14-11

TEL (0177) 74-0455

FAX (0177) 74-0456

三内丸山通信

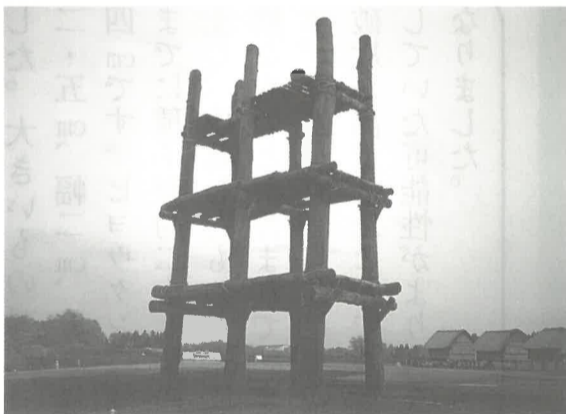


平成8年度の三内丸山遺跡

今年度の三内丸山遺跡を振り返って

三内丸山遺跡は学術的に価値の高い、我が国を代表する縄文時代の遺跡として、平成九年三月五日に国史跡に指定されました。

仮整備



今年度は、今から約四千年五百年前（縄文時代中期後半）の、長さ三十二メートル幅十メートルの大型竪穴住居一棟、高さ十四・七メートルの大型掘立柱建物一棟、土坑墓（大人のお墓）を復元しました。

調査研究

発掘調査では、三地点を調査しました。第六次調査区では縄文時代中期の直径約六十センチの木柱一点が出土し、今後周辺の発掘調査を続ける予定です。

第七次調査区では道を伴う土坑墓（大人のお墓）列が長さ三百五十五メートルまで確認され、当時の計画的な集落づくりが伺われます。また、中国の東北地方の遼寧省や内モンゴル自治区を訪れ、三内丸山遺跡との関連について調査を実施しました。



普及啓発

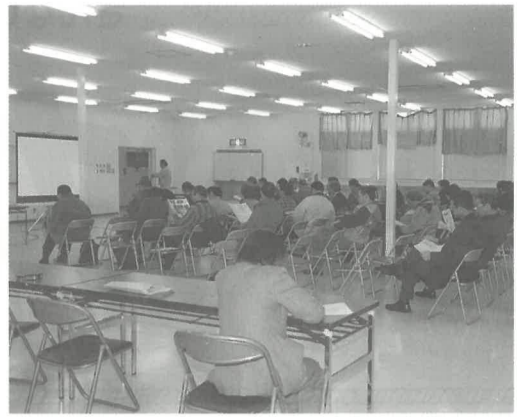


三内丸山遺跡の情報を提供・発信するために、青森市や東京都でシンポジウムやフォーラムを行いました。また、小・中学校などを対象にした当時の生活の一部を体験する、体験学習を実施しました。十一月十日には遺跡で縄文フェスタを行い、数多くの見学者が訪れました。

なお、三内丸山遺跡を中心に、全国の貴重な遺物を展示した「縄文まほろば博」を開催しました。この「縄文まほろば博」は東京、大阪、仙台、青森を巡回展示し、三十九万六千三百十人の多くの方々が見学に訪れました。



遺跡報告会



三月一日に遺跡内の体験学習館で三内丸山遺跡対策室主催の報告会が開かれました。スライドや資料を使いながら平成八年度の発掘

調査の成果、土壌の水洗い分析作業のなかから発見された編布（あんぎん）やヒョウタンについて、そして夏に行われた中国東北部の遺跡調査について調査担当者が発表を行いました。特に、発掘調査によって集落が南側にさらに拡大していたこと、大人の墓が三百五十五m以上も広がっていることなどが注目されました。

会場には約八十人が集まり、熱心にメモを取る人も多数見受けられました。報告会はこれからも毎年開催される予定です。

生活実験 縄文人の生活

2月15日から16日にかけて、青森商工会議所青年部のみなさんが遺跡活用の可能性を探るため、復元された竪穴住居で厳冬期に宿泊する生活実験を実施しました。



実験に使用した住居は直径4メートルの大きさで、中央に石で囲んだ炉を設け、リンゴの枝を主な燃料とし、天井の火棚には燻製を試みた魚をつるし、サケやタラの鍋をつつきながら、長い夜を楽しみました。

ちなみに、外気温は氷点下2度ほど、住居内は平均摂氏6度で、防寒着に身を包んでいれば、寒さは感じませんでした。心配された煙は、無事屋根から抜けていきました。

古環境検討会議

三月五・六日の両日、体験学習館にて古環境検討会議が開かれました。

この会議は様々な自然科学的な分析を通じて、ここに集落が出現した今から五千五百年前の気候や自然環境、人々の生業活動を考えるために行われたもので

花粉分析、植物種子、木材、遺伝子分析、魚類、地形・地質、年代測定など、これまで行われてきた分析結果について、それぞれの専門分野の先生方から報告がありました。



それらから、当時の集落の周辺には人間が管理したクリ林が広がり、自然の森を積極的に作り替え、維持していたことがわかりました。また、食料では予想以上に魚類が豊富で、年間を通じてこの場所で生活を営んでいたことも明らかになりました。

ヒョウタンの果皮(かひ)出土

平成五年に調査した第六鉄塔地区の縄文時代前期(約五千五百年前)の土の分析から、ヒョウタンの果皮の破片が七点見つかりました。大きいもので長さ二・五cm、幅二cm、厚さは四cmです。ヒョウタンは今までに種子が約二十七個出土し、成熟したものと未成熟なものが含まれています。今回、成熟した果実の破片が出土したことで栽培していた可能性がより高くなりました。

連載「第三回」

粘土採掘穴



粘土採掘穴

遺跡からは、土器を作る時の粘土を採ったと考えられる穴が見つかったといま

大人のお墓を復元しました

昨年十一月、土坑墓(大人のお墓)の復元を行いました。平成四年度の調査で見つかった、二列に並んだ墓列の一部です。当時お墓は何らかの目印があったと考えられ、復元は高さ五〇cm前後の盛り土で表現しました。また二列の間は若干凹んでいたため、土



復元された土坑墓(大人のお墓)

平成9年度も見どころいっぱい

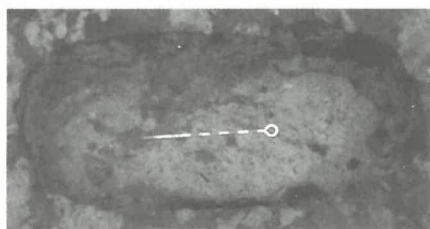
土を採っています。おそらくその粘土が土器作りに適していたのでしょう。壁は粘土の層の部分は掻き出されたようにえぐれています。底は採掘を繰り返しているため、凹凸があります。土器を焼いた跡は見つかっていませんが、集落のどこかで作られたと考えられます。

粘土採掘の穴が発掘調査で見つかる例は非常に少なく、集落内から見つかるのも珍しいものです。

の色を変えて道をあらわしています。発掘調査で土坑墓列は台地の端まで延びていることがわかっており、復元はただ一部ですが、当時の集落の様子を再現しています。

新しい遺構の公開が始まります

大人のお墓を強化ガラスで保護して見学できるようにする整備を進めています。355m続くお墓の列の一番西側のものです。復元したお墓とあわせてその広がりを実感できるようになります。



三内丸山遺跡の「あんない」

見学時間 9:00~16:30
(入場は16:00まで)
ボランティア・ガイド定時解説
9:00から一時間ごと
(最終は15:30)
交通手段 市営バス
青森駅から運転免許センター行き
三内丸山遺跡前で下車